

レジメン名

Durvalumab+VP-16+CDDP

出典 イミフィンジ適正使用ガイド 2020年8月作成
CASPIAN試験

実施部署区分

入院 外来 処置

対象疾患

進展型小細胞肺癌

進行・再発
 補助療法(術前・術後)

原則PS0-1を対象とする

1クール期間 21日*

(次のクールまでの標準期間)

総クール数 PDまで*

※4クール施行後、Durvalumabのみを4週毎に繰り返す

投与減速の基準(イミフィンジ)

その他	Grade2以上のInfusion reaction:投与中断又は、投与速度を50%に減速し最下位。Grade2の場合、次回の投与速度は50%減速する。 ※次回投与前の予防投薬(解熱鎮痛薬・抗ヒスタミン薬)を検討する
-----	---

投与中止の基準(イミフィンジ)

AST	120IU/L以上	ALT	120IU/L以上
T-bil	1.8mg/dL以上	Cr	1.6mg/dL以上
その他	Grade2の間質性肺疾患、Grade2の大腸炎、Grade2以上の高血糖・1型糖尿病、Grade2以上の内分泌障害		

投与減量の基準(CDDP、VP-16)

ANC	500/mm ³ 未満	PLT	2.5万/mm ³ 未満
Hb	7.0g/dL未満		
	上記該当の場合、次コースのエトポシドを前コースの75%とする。		

投与中止の基準(CDDP、VP-16)

WBC	3000/mm ³ 未満	PLT	7.5万/mm ³ 未満
		CLcr	60mL/min未満*
その他	※CDDPを50%減量		

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
デュルバルマブ(イミフィンジ)	1500mg/body*	輸液100mL	60分	day1
エトポシド	80-100mg/m ²	輸液500mL	120分	d1-3
シスプラチン	75-80mg/m ²	輸液適量計500mL	120分	d1
※デュルバルマブ:体重30kg以下の場合の1回投与量は20mg/kg				

1日投与順 (経時的にプレメタキオン・ポストメタキオン、 溶解液まで含む)
《導入療法》 day1 ①生食50mL (ルート確保用) ②イミフィンジ1500mg+輸液100mL (60min) 0.2又は0.22μmのインラインフィルターを使用 ③アロキソ0.75mg/kg+デキサト9.9mg (15min) ④エトポシド80-100mg/m ² +輸液500mL (2hr) DEHPフリーの点滴セットを用いて投与 ⑤硫酸マグネシウム4mL+ソルデム3A500mL (60min) ⑥マンニトール250mL (30min) ⑦シスプラチン75-80mg/m ² +輸液適量計500mL (2hr) ⑧硫酸マグネシウム4mL+ソルデム3A500mL (60min) day2-3 ①デキサト6.6mg+生食50mL(15-30min) ②エトポシド80-100mg/m ² +輸液500mL (2hr) DEHPフリーの点滴セットを用いて投与 ③生食50mL(フラッシュ用) <内服薬> day1 アプレタトカプセル125mg抗がん剤投与60-90分前 day2-3 アプレタトカプセル80mg 《維持療法》 day1 ①生食50mL (ルート確保用) ②イミフィンジ1500mg+輸液100mL (60min) 0.2又は0.22μmのインラインフィルターを使用